

日本版ピューリッツァー賞のためのファンド

平和・協同ジャーナリスト基金 (PCJF) ★2011 講演会

ほんとうのことが知りたい

原爆・原発・日米関係

世界を震撼させた東京電力福島第一原子力発電所の事故は、東電による収束作業にもかかわらず、放射能の放出は止まらず、被害はさらに拡大、長期化する様相をみせています。そのうえ、東電と政府による事故に関する情報公開が不十分で、しかも「小出し」であるため、日本国民も世界の人々もいまだに事故の全容を知ることができない、という状態が続いています。福島原発で何が起きたのか、スリーマイル島やチェルノブイリの原発事故とどう違うのか、どんな事態が予想されるのか、米軍・米国との関係は……など、核問題に明るい両ベテランに話をうかがいます。

日時★ **7月9日** (土) 13:30~16:50 (開場 13:00)

会場★明治大学リバティータワー 1032 教室

JR中央・総武線、東京メトロ丸ノ内線「御茶ノ水駅」か「淡路町駅」
東京メトロ千代田線「新御茶ノ水駅」、都営地下鉄三田線、新宿線、
東京メトロ半蔵門線「神保町駅」／いずれも下車徒歩5分

参加費★1000円 (学生 500円)

問合せ★TEL&FAX 03-3475-2495



前田哲男さん
ジャーナリスト

平和・協同ジャーナリスト基金賞
選考委員



豊崎博光さん
フォトジャーナリスト

1995年『アトミック・エイジ』
(築地書館)で第1回平和・協
同ジャーナリスト基金賞受賞



フクシマ — 新たな地球被ばく

豊崎博光さん

1948年横浜生まれ。1968年に東京写真専門学校報道写真科二部を卒業後、フリーとなる。返還前の沖縄、在日朝鮮人や韓国人、アメリカの先住民インディアンなどを取材後、1978年から日本や世界の核被害と被曝者、反核・反原発運動などの取材を始める。主な著書に『核よ驕るなかれ』(講談社)、『写真・絵画集成 核・原発』(日本図書センター)、『マーシャル諸島 核の世紀』(同)など。

日米安保と原発 *Atomic for Peace* からトモダチ作戦まで

Atomic for Peace アイゼンハワー元米大統領が1953年に行った国連演説

前田哲男さん

1938年生まれ。長崎放送記者を経てフリー・ジャーナリストに。軍事史研究者、評論家でもある。東京国際大学国際関係学部教授も務めた。ピキニ核実験の住民被害調査、重慶爆撃の実態調査、自衛隊、日米安保体制下の現状調査などが主領域。主な著書に『棄民の群島』(時事通信社)、『自衛隊の歴史』(筑摩書房)、『新訂版 戦略爆撃の思想 —ゲルニカ、重慶、広島』(凱風社)、『隠されたヒバクシャ』(監修、凱風社)など。

主催：平和・協同ジャーナリスト基金／現代史研究会

後援：アジア記者クラブ